九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

知的障害者表象の文学的研究 : 知的障害者や人間はいかに語り得るか

河内, 重雄
九州大学大学院人文科学府言語・文学専攻 : 日本・東洋文学 国語学・国文学

https://doi.org/10.15017/460595

出版情報：Kyushu University, 2009, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

本書は、課程博士論文『知的障害者表象の文学的研究　知的障害者や人間はいかに語り得るか』（平成二十一年十二月、九州大学大学院人文科学府提出）を加筆訂正し、平成二十三年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト研究経費により刊行したものである。

大幅に加筆訂正したのは、巻末資料の「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」。平成二十二年八月に、「近・現代文学における知的障害者表象に関する基礎的研究」という研究課題名で科学研究費補助金（研究種目は研究活動スタート支援、研究期間は平成二十三年三月まで）をとることができた。この調査研究により、知的障害に関する文学作品や教育学などの文献、事項が飛躍的に充実した。

調査研究の成果を踏まえ、本文も加筆訂正した。教育で伸ばすべき意志や理性をもった人間と、それらをもたぬ非人間的な「白痴者」という二項対立的な把握が、義務教育が普及する明治二十年代から三十年代にかけて成立する。本書では、國木田獨歩「春の鳥」（明治三十七年）をはじめとする多くの文学作品を考察することで、健常者によって一方的に語られる知的障害者から、自らの意志や世界認識を語る知的障害者へと、文学的表象が変容した一つの流れを浮き彫りにした。その上で、自らの意志を語る知的障害者表象は、意志を価値化することで、近代以降の意志を重視した教育や法などの社会制度、価値観を補強しているに過ぎないと結論付ける。このような、補強による行き詰まりの状況を打開する可能性を、人間／知的障害者という二項対立ではなく、知的障害者―長崎の被爆者―キリシタンというつながりで、記憶を中心テーマとしている青来有一「石」（平成十七年）にみる。

課程博士論文には付けていなかった「人名・事項索引」は、本文だけでなく、「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」にも及んでいる。下記の九州大学出版会のホームページ上で、最新の「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」及び「検索項目例」（「人名・事項索引」）を公開している。「知的障害に関する記述を含む作品・事項一覧」、「検索項目例」については、随時更新していく。

九州大学出版会 HP アドレス「http://kup.or.jp/booklist/hu/literature/1068.html」